

福生市立福生第三中学校 学校いじめ防止対策基本方針

福生市立福生第三中学校
校長 増木 一仁

1 いじめの定義

「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

2 いじめの防止についての基本的な考え方

いじめは人間として絶対に許されない、人権に関わる重大な問題である。生徒は、学校という小さな社会の中で様々な人と接する。つまり、どの生徒も被害者にも加害者にもなりうる可能性があり、教職員が日頃から些細な予兆を見逃さないように努め、学校全体で組織的に対応していく。

また、学校は生徒が友人や教職員との信頼関係の中で、安心して安全に生活できる場になるよう、思いやりやいたわりをもった集団が形成され、仲間と共に人間的に成長できる学校づくりを進める。

3 いじめ防止対策組織

「いじめ対策委員会」を設置し、各学年が横断的な繋がりをもって情報交換をしたり、生徒の小さな変化を見逃すことのないように対応していく。また、特定の教員だけで対応するのではなく、組織として対応にあたるようにする。

(趣旨)

本校では、生活指導部「学校いじめ対策委員会」（以下、「委員会」という。）が学校におけるいじめの防止に関する措置を実行的に行う。

(構成)

校長、副校長、各分掌主任、各学年主任、特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー、当該生徒の担任

(必要に応じて、教務主任、教科担当、部活顧問を含める)

(設置期間)

委員会は、常設の機関とする。

(所掌事項)

委員会は、学校が組織的にいじめの問題に取り組むにあたって、中心となる役割を担い、以下の内容を所掌する。

- いじめについて、学校の中心となって機敏に解決を図っていく。
- いじめ防止等に関する取組の実施（授業や行事など）や年間計画の作成に関すること。
- 学校いじめ防止基本方針の検証及び改善に関わること。（学校評価アンケートより）
- 教職員への共通理解と意識啓発に関わること。
- 生徒や保護者、地域に対する情報発信と意識啓発に関すること。
- いじめに関する生徒情報の交換や生徒の問題行動の把握、記録に関すること。
- その他いじめに関すること。

4 いじめの防止等に関する具体的な取組

(1) いじめの未然防止の取組 ～生徒と教職員の信頼関係を基盤として～

- 教職員の指導力向上と組織的対応
 - ・いじめに関する研修を年3回実施。
 - ・生活指導部会を週1回開催し、情報交換及び取組状況の確認。
 - ・職員会議、職員朝会等での情報交換。
- いじめを防止する取組
 - ・生活指導部通信の活用。（いじめ問題を掲載）
 - ・セーフティ教室の実施およびSNS 東京ノートの活用。
 - ・いじめ防止サミットへの参加。
 - ・ふっさ「いじめ防止標語」への応募。
 - ・年3回の道徳授業。

(2) いじめの早期発見の取組

- 授業等の指導場面だけではなく、教師は休み時間も生徒とともにいる体制づくり。（校内巡回等）
- 年3回、いじめアンケートを実施。（6月・11月・2月）
- 情報共有シートの活用。
- 被害の生徒、周囲の生徒からのいじめの情報の確実な受信。
- 学校いじめ対策委員会によるいじめの確実な情報共有と解決に向けた機敏で組織的な対応。
- 保護者・地域・関係機関との連携。

(3) いじめに対する措置

- いじめの発見・通報を受けたら「学校いじめ対策委員会」を中心とした機敏で組織的対応を実施。
- 被害者・加害者・周囲の生徒からの聞き取りを実施。
- 教職員の共通理解、スクールカウンセラー等の専門家との連携。
- 被害者・加害者への丁寧な指導（保護者を含む）
- 所管教育委員会・関係機関・保護者・地域との連携。
- いじめを起こした個人または集団へのはたらきかけを行い、いじめを見過ごさない、生み出さない集団づくり。

5 重大事態への対応

(1) 重大事態とは学校長が次のような事態を認めた場合を言う。

- いじめにより生徒の生命、心身、又は財産に重大な被害が生じた疑いがあるとき。
- いじめにより生徒が相当の期間、学校を欠席することを余儀なくされている疑いが生じているとき。

(2) 重大事態調査委員会の設置

(趣旨)

重大事態が生じた場合、その対処及び、事後同様の事態の発生の防止に資するために、事態調査委員会（以下「調査委員会」という。）を、学校に設置する。

(構成)

運営委員会・特別支援教育校内委員会・当該学年会・その他関係する教員等

(所掌事項)

調査委員会は、重大事態に係る事実関係を明確にするために、調査を行う。

(3) いじめを受けた生徒及び保護者への対応

- 調査委員会における調査を行う時には、いじめを受けた生徒及び保護者に対して、事実関係の情報を適切に提供するとともに、いじめを受けた生徒及び保護者からの申し立てがあった時には、適切かつ真摯に対応する。

(4) いじめの解消の定義

- いじめが解消しているかどうかを判断する時点において、被害者がいじめの行為により心身の苦痛を感じていないと認められること。
- 心身の苦痛を感じていないかどうかを面談等により確認する。
- いじめが解消してから、三ヶ月程度は面談等を実施して見守っていく。

6 特に配慮を必要とする生徒について

- 発達障害を含む、障害のある生徒
- 海外から帰国した生徒や外国人の生徒
- 性同一性障害や性的指向・性自認に係る生徒
- 学校として特に配慮が必要な生徒

7 学校の取組に対する検証・見直し

- (1) 学校いじめ防止基本方針をはじめとするいじめ防止の取組については、学校評価やふれあい月間における学校シートを活用したPDCAサイクルで見直し、実効性のある取組となるように努める。
- (2) いじめに関する内容を含んだ学校アンケートを年3回（6月、11月、12月）に実施し、取組に関する検証を学校いじめ対策委員会で行う。

8 その他

- (1) 学校いじめ防止基本方針は、学校ホームページに掲載する。
- (2) ふれあい月間（6、11、2月）では、全校朝礼や生徒会朝礼でいじめ防止に関することに触れ、いじめの防止に取り組む。